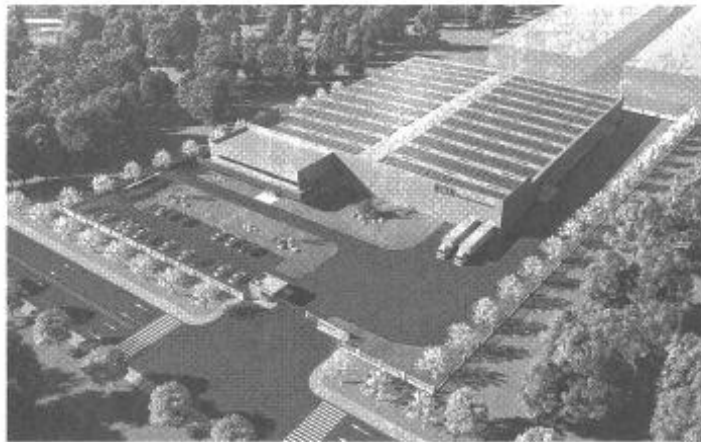


中国工場を移転拡張

自動養鶏設備のハイテム

12億円投資 アジア販売拡大



新工場のイメージ

集卵機などの自動養鶏設備メーカーのハイテム（本社各務原市、安田勝彦社長）は、中国天津市の工場を天津市内で移転拡張し、来年8月にも稼働する。総投資額は約12億円。現在の工場所在地が都市計画で商業地域に指定されたことに伴うもの。延べ床面積を約1万平方メートルと現状の2・5倍に広げ、生産体制を強化。韓国や台湾などアジアへの販売拡大を目指す。（岐阜・伊藤綾音）



安田勝彦社長

現工場から北に約10メートル離れた場所に移る。敷地面積は約2万平方メートル。建物は平屋建てで事務所棟のみ2階建てを計画する。アルミ亜鉛ワイヤーのケージ生産や、集卵機、給餌機、集ふんなどの機械の組み立ては従来通り行う。加えて、協力工場で実施していた鋼板の加工も一部手掛け、ケージや集卵機などの部品を一部内製化する。

屋根には太陽光パネルを設置し、ケージの溶接などに使用する工場電力の大半を賄うことで、環境配慮や

電気代削減に取り組む。緑地や食堂も備え、働く環境を整える。

工場長を含め全社員が中国人で、約50人が働く。各務原市の本社で図面や品質管理を手掛け、工場は製造に特化する。

ハイテムは日本国内でシェア約6割を誇るが、人口減少などを考慮し、海外販売を強化する。日本と中国は農場に直販し、韓国や台湾、タイなど世界10カ国には販売代理店を持つ。中国は競合他社が多く価格競争に陥る中で、韓国や台湾に重点を置く。また20年ほどかけて、インドやパキスタン、バングラデシュ、サウジアラビアなどを含むアジア諸国で、平均シェア1割を目指す。

安田社長は「設備は現地で組み立てやアフターサービスが必要のため、アジアでシェアを拡大し、エッグファームオートメーションのリーダーになりたい」と話している。

1972年設立。社員数は約100人。2025年9月期の売上高は61億円。